



● 福智町地方創生推進委員会 委員長
● 福岡県立大学看護学部学校保健領域

松浦賢長 教授

Fukuoka Prefectural University

毎回活発な意見が交わされ、計画策定にはその発想が十分に発揮されています。山麓の豊かな自然など地域資源を生かした挑戦的な目標と、達成可能な現実的な目標が共存した、バランスのとれた計画になっていると思います」と完成した新しい総合戦略に自信をのぞかせました。

またこれからの町の目指す姿については「ドローンによる宅配システムや自動交通の実験など、『Society5.0』を推進する国のプロジェクトが地方を中心に実現している。そこにいかに参入することができるか。そして今はこれまで獲得した『交流人口』をリピート客にし、『関係人口』を増やす段階が来ています。最終

総 合戦略は国の指針に合わせて、常に検証・改訂することが求められています。今回の2期目の戦略策定においては、教育・商業・観光・報道・福祉など、多方面から専門的な知識を持つ委員7人が「福智町地方創生推進委員」に任命され、積極的に意見を交わしてきました。

委員長を務めた福岡県立大学の松浦賢長教授は「委員会では



↑ 委員会 で国指定史跡「城山横穴群」をはじめ史跡や名所を視察し、KPI設定につながる町の持つ可能性を再確認。

20年先の未来を決める まちづくりの分岐点

降下し続ける人口の減少カーブを少しでも緩やかにするにはこれからの勝負の時。計画は不断の「PDCAサイクル」で検証・改善を目指します。

目標である「定住」。実現のためには目標を目指し、計画を着実に進めなければなりません」とこれからの展望を見据えました。

定住人口の増加は容易ではありません。早急の結果が得られるものでもありません。総合戦略はまちづくりを支える確かな方向を示し、地方創生を目指すこの町を導いていきます。



↑ 委員会最終日の3月25日、計画を受け取った黒土町長は「この戦略を柱に、人口減に立ち向かいたい」と決意を表明。

定住人口

この町で暮らすことを決めた人材。居住者の転出を抑え、定住に結びつく可能性のある「交流人口」や「関係人口」を増やすことが、最終的なこの層の増加につながる。



関係人口

地域へ愛着を持つ地域外の人材。地域づくりを担う可能性を持つこの層を広げることが、重要な取り組みとなる。ふるさと納税の寄付者などもこの層にあたると思われる。



交流人口

主にイベントや名所の観光を目的に訪れた人の層を指す。この時点ではまだ一過性のものであり、さらに取り組みを進め「関係人口」への移行を目指す必要がある。



PDCAサイクル

【ピーディーシーイーサイクル】

Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) という4つの視点を取り込んだプロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。「Plan-Do」として効果的な地方版総合戦略の策定実施、「Check」として成果の客観的な検証、「Act」として検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行う。施策の効果を高めるため、多様な主体や、他の地域・施策との連携を進めるなど、限られた財源や時間の中で最大限の成果を目指しています。



第2期総合戦略は4月以降に閲覧できます
完成した総合戦略は4月以降に印刷・製本を予定。
内容は町公式ホームページもご覧ください。
問 まちづくり総合政策課 ☎ 22-7766